

長崎県 上対馬圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当該圏域は、対馬島の北部に位置し、水産業が基幹産業となっている。漁業協同組合は、平成19年4月1日に上対馬町琴漁協と上対馬町南部漁協の合併により、上対馬南漁協が発足し、上県町漁協、伊奈漁協、佐須奈漁協、上対馬町漁協と併せて5協同組合がある。漁協合併については、現在のところ予定はない。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当該圏域では、一本釣り、採貝藻、はえなわ等多様な漁業が営まれ、主要な魚種は、アジ、サバ、サザエなどである。

当該圏域を含む対馬市の漁業生産量は減少傾向で推移しており、良好な資源状況とはいえない。このような中で、当該圏域では、魚礁や築磯の整備、磯焼けが進む沿岸の藻場等、漁場の保全に努めながら、クエ・アワビなどの種苗放流を行うなど、栽培漁業に熱心に取り組んである。資源管理については、捕獲禁止アワビ10cm、サザエ2.5cm、ブリ15cm、マダイ15cm、ヒラメ25cm、イサキ15cmやアマダイのはえ縄及び立縄漁業における休漁日の設定と使用漁具の制限などに取り組んでいる。

③ 水産物の流通・加工の状況

対馬地区で水揚げされた水産物は、約7割が県外に出荷され、そのうちの大半が福岡県への出荷となっている。代表的な加工品は、アジの開きがあり、対馬島内のほか福岡県へ出荷されている。その他、イカの一晩干しは、島内外に出荷されている。

④ 養殖業の状況

カジメの養殖・増殖に取り組んでいる。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

当該圏域における漁業組合員数は令和1年末で、正組合員 337 人、準組合員

550人と近年では減少傾向にある。今後も減少・高齢化の傾向は続くものと見込まれるが、対馬市漁業就業実践研修事業補助金を利用し、Uターン、Iターンで新規参入する若者もあり、その増大が期待されている。

⑥ 水産業の発展のための取組

カジメの養殖・増殖に取り組んでいる。また、鮮度保持のために水氷、船上活き氷を行い、個々人が水揚げした水産物を漁協が規格毎に箱詰めし、品質の安定を図っている。さらには、安定的に水産物を供給出来るよう出荷調整用の生け簀を利用している。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

水産基盤整備に関しては、高齢化する漁業者や女性が安心して働くことのできるような施設の整備、水産物の鮮度保持施設及び、安定供給に向けた安全係船岸の確保などの整備を急ぐとともに老朽化が進行している既存施設のライフサイクルコストを抑えながら長寿命化を図り、今後の漁業生産力を維持していくことが課題となっている。

また、同時に既存漁港施設の機能分担を図りながら、インフラストックを有効活用することが必要とされている。

さらには、水産資源の維持・回復に向け、資源管理や栽培漁業等と連携した漁場の整備が求められている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当該圏域においては、現在のところ各漁港の統合、廃止等はないものの、漁業者の高齢化による減少により、今後は検討していく方針である。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	外海離島型	設定理由；良好な漁場に近接する外海に位置する離島で、前線基地として水産物の安定・向上を目指す。
② 圏域範囲	第1種漁港：13 第2種漁港：2 第3種漁港：なし 第4種漁港：2 特定第3種漁港：なし	設定理由；近接した良好な漁場で水産物を確保し、その水産物を島内外の市場等へ出荷している対馬島北部に位置する範囲

③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港	鰯ノ浦、五根緒、泉、琴、一重、小鹿、伊奈	<p>設定理由；鰯ノ浦漁港は、集出荷機能・休憩機能、地先漁業生産機能・増養殖蓄養強化機能を有している。一本釣り、採貝藻漁業が主な漁業であり、サワラ、サザエが主に陸揚げされている。現在、サワラは圏域内で陸揚量の約 12%を占めており沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>五根緒漁港は、集出荷機能・準備・休憩機能、地先漁業生産機能・増養殖蓄養強化機能を有している。定置網、刺網が主な漁業であり、サザエが主に陸揚げされている。サザエは圏域内の陸揚量の約 8%を占めており沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>泉漁港は、集出荷機能・休憩機能、地先漁業生産機能・増養殖蓄養強化機能を有している。一本釣り、延縄が主な漁業であり、サザエが主に陸揚げされている。サザエは圏域内の陸揚量の約 15%を占めており沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>琴漁港は、集出荷機能・準備・休憩機能、地先漁業生産機能・増養殖蓄養強化機能を有している。延縄、定置網が主な漁業であり、イカが主に陸揚げされている。イカは圏域内の陸揚量の約 20%を占めており沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>一重漁港は、集出荷機能・準備・</p>

		<p>休憩機能、地先漁業生産機能を有している。いか釣り、あぐり網漁業が主な漁業であり、あじ、サバが主に陸揚げされている。前計画では、イカが圏域内での陸揚量の約 10%を占めていたが、現在はあじが約 97%を占め沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>伊奈漁港は、集出荷・準備・休憩・避難機能、地先漁業生産機能・増養殖蓄養強化機能を有している。定置網漁業が主な漁業であり、サバやぶりなど様々な魚種が陸揚げされている。前計画においては、ヒラメが圏域内陸揚量の約 30%を占めていたが、現在はサバが約 10%を占めており、沿岸漁業の陸揚港としての役割が大きい。</p> <p>小鹿漁港は、集出荷機能・準備・休憩機能、地先漁業生産機能を有している。イカ釣り、一本釣り漁が主な漁業である。前計画においては、イカは、圏域内での陸揚げ量の約 10%を占めていたが、現在は約 20%であり、沿岸漁業の前線基地としての役割が大きい。</p>
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和 1年)

圏域の属地陸揚量(トン)	3,210	圏域の登録漁船隻数(隻)	996
圏域の総漁港数	17	圏域内での輸出取扱量(トン)	
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	4		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	該当なし		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種			
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)			
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)			

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

漁港間の機能分担を図りながら、防波堤の新設や浮棧橋の整備を行い、産地における水産物の価格形成力の向上と生産・流通コストの削減を図る。

② 養殖生産拠点の形成

なし

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

当該圏域を含む対馬地区の漁業生産量については、近年減少傾向にあり、また、令和3年度に県下全域で実施した藻場分布調査では、海水温の上昇が原因と思われる藻場面積の減少が確認され、今後の資源の悪化が懸念されている。そのため、水産資源の回復・増大を図るため、漁業者等が自主的に行う資源管理等の取り組みと連携しながら、沿岸から沖合いまで水産生物の成長に合わせた漁場づくりや環境の改善を実施、併せて増殖場の整備効果を確認するため、潜水調査やサンプリングによる餌料生物や魚類、藻類等の生育状況を継続的にモニタリングし、必要に応じ、植食性生物の駆除や藻類種苗の追加等の対策を講じる。

② 災害リスクへの対応力強化

大規模な自然災害に備えた重要施設の機能強化を図るとともに、老朽化が進行して

いる漁港施設は、今後維持補修や更新に係るコストが増大すると考えられるため、予防保全的な対策を施すことで施設の長寿命化を進め、将来の維持補修の更新に係るコストの縮減を図る。

生産拠点漁港においては、地震及び台風・爆弾低気圧等での主要施設の被害を最小限にとどめるため、最新のデータによる診断を行い、最低限の漁業活動が継続されるように改良を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

既存施設のストック効果を推進し、遊漁船の発着等の既存施設の有効活用により、漁村の賑わいの創出を図る。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

高齢者や女性が安心して働くことのできる環境を整え、安定した漁業生産量を確保し、生産コストの縮減を図る漁港施設の整備を行う。

強風時や潮位差の影響を受ける状況においても漁獲物の陸揚げ作業を安全かつ効率的に行えるよう必要な施設の整備や既設施設の改良等を行う。また、荒天時においても漁船が安全に係留できるような施設の整備を行い、他港避難の解消を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
一重	流通機能強化	水産生産	一重	4	
佐護湊	流通機能強化	水産生産	佐護湊	1	

産地における水産物の価格形成力の向上と生産・流通コストの縮減を図るため、防波堤の新設や浮棧橋の整備を行う。

② 養殖生産拠点の形成

なし

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
対馬	環境変化、資源管理、藻場・干潟	水産環境整備事業

水産資源の維持・回復を図るため、種苗放流や禁漁区の設定など資源管理の取り組みと連携しながら、沿岸域に幼稚仔魚の餌場や隠れ場、成育の場となる増殖場を整備し、その沖合には効率的な漁獲が可能となるよう魚礁漁場を整備することにより、魚の成長に合わせた漁場づくりを行う。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
泉	予防保全	機能保全	泉	1	
小鹿	予防保全	機能保全	小鹿	2	
伊奈	安全・安心	漁村再生	伊奈	4	
五根緒	予防保全	機能保全	五根緒	1	
西津屋	予防保全	機能保全	西津屋	1	
豊	予防保全	機能保全	豊	1	
浜久須	予防保全	機能保全	浜久須	1	

漁業地域の安全・安心の確保のため、漁港施設の予防保全型の老朽化対策等を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
泉	活用促進	機能保全	泉	1	
小鹿	活用促進	機能保全	小鹿	2	
五根緒	活用促進	機能保全	五根緒	1	
西津屋	活用促進	機能保全	西津屋	1	
豊	活用促進	機能保全	豊	1	
浜久須	活用促進	機能保全	浜久須	1	

既存施設のストック効果を推進し、遊漁船の発着等の既存施設の有効活用により、漁村の賑わいの創出を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
泉	就労環境	漁村再生	泉	1	
琴	就労環境	漁村再生	琴	2	
小鹿	就労環境	機能増進	小鹿	2	
一重	就労環境	水産生産	一重	4	
五根緒	就労環境	漁村再生	五根緒	1	
佐護湊	就労環境	漁村再生	佐護湊	1	
富ヶ浦	就労環境	漁村再生	富ヶ浦	1	

女性や若者から高齢者までの幅広い世代が安全で働きやすい環境づくりを行うため、防波堤の新設や防風施設、浮体式係船岸の整備を行い、漁船の係留や水揚げ、準備作業の軽労化を図る。

4. 環境への配慮事項

藻場は、多種多様な生物の産卵の場や幼稚魚の成育の場、海水の浄化など多様な機能を有しているが、近年「磯焼け」の拡大による藻場の消失が進行している。

このため、漁業資源の回復には藻場回復を計画的、効果的に進める必要があるとの地域の漁業関係者が共通認識の下、10年後の回復目標を定めた「長崎県藻場回復ビジョン」（平成28年7月）に基づき、関係者が一体となってソフト事業、ハード事業の両面から総合的な藻場回復に取り組んでいく。

ソフト事業の面では、漁業協同組合を中心に「藻場見守り隊」を設置し、回復目標に向けた長期及び各年度の活動計画を定めた「地域藻場回復計画」を策定して地域別、藻場の状況別に対応策を講じることとし、ハード事業の面では、藻場見守り隊の活動に呼応して、藻場繁茂の基質と核藻場礁を整備する増殖場の整備事業を実施し、さらに磯焼け対策緊急整備事業等を活用して早期の藻場機能の発現を促し、藻場の拡大と早急な資源回復を図るとともに、漁港施設においても環境配慮型ブロックの設置等を推進して、漁場環境の改善を進める。

5. 水産物流通圏域図

長崎県_水産物流通圏域図(上対馬圏域、中対馬圏域)

上対馬圏域 外海離島型
 圏域総陸揚量: 3,210 t
 圏域総陸揚金額: 26.9 億円
 漁港: 17港, 港湾: 4港

中対馬圏域 外海離島型
 圏域総陸揚量: 6,388 t
 圏域総陸揚金額: 82.8 億円
 漁港: 26港, 港湾: 2港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 1,726t
 圏域海面養殖業総産出額: 70.5億円
 主要養殖魚種: クロマグリ

出荷凡例詳細

50t未満	
50~100t	
100t~500t	
500t~1000t	
1000t~5000t	
5000t以上	

- ←: 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輪) ←)
- ◎ ←: 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輪) ←)
- ←: 一般漁港 ←
- ←: 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ) ←
- ☆ ←: 産地市場 ←
- 漁業: 主な魚種 ←
 (主な漁業種が、 (巻き網・底引き網等,) ←
 の場合は示す) ←
- ←: 水産物集約 (漁船陸揚げ) ←
- ←: 水産物集約 (陸送) ←
- ◀: 加工場・消費地への出荷 ←
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、←
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を←
 できる限り示す。) ←
- ←: 養殖に係る水産物の流れ ←
- ◀: 養殖漁場 ←

